

小さなエコの大きな意味と信仰

すべてのいのちを守るために

吉川 まみ
上智大学教授

11 生物多様性を守るエコ実践 〜生き物ブランド米に学ぶ〜

主のご復活おめでとうございませす。この喜びが、困難を抱える被災地や貧困地域をはじめ世界中の隅々を照らし、共に歩む力となりますように。

前回は、世界中で取り組みが始まっているサステナブルファッションを紹介し、衣服と自分との関わりを整えるエコ実践の基本についてお話ししました。今回は、私たちが毎日食べている「飯で守る生物多様性」「生き物ブランド米」の取り組みをご紹介します。

生物多様性とは

人間が、神の被造界の生物多様性を破壊すること、気候変動を引き起こしたり、天然林を大地からはぎ取ったり、湿地を破壊したりすることによって、人間が地球の十全さをおとすこと、人間が、地球上の水や土地や空気を生命を汚染すること、これらはすべて罪なのです。

(回勅『ラウタート・シ』にも暮らす家を大切に』(8))

これは、教皇フランシスコがコンスタンチノープル総主教バルトロマイ一世の言葉を回勅で引用されている箇所です。

生物多様性とは、生き物の豊かな固有性と相互依存的なつながりのこと。私たちは豊かな緑を目にすると、特に環境に問題はないと思いがちですが、生物多様性がいつまでも豊かであるためには、山林や里地里山、干潟など自然の形ごとの生態系と、動植物種など生き物の種と、同じ種でも形や模様など個性を決める遺伝子の多様性が必要です。

生き物ブランド米とは

「生き物ブランド米」とは、「生きものマーク米・bird friendly rice」とも呼ばれています。農林水産省による定義によれば、



湘南タゲリ米を紹介する自然保護グループ「三翠会」の公式サイト (https://www.tagerimai.com)

三翠会が、タゲリが飛来する田んぼのブランド米を作る「協力農家」を募り、農業協同組合(農協)よりも高く買い上げ、生物多様性を守るお米を購入し

ば、「生物多様性保全に配慮した米」という意味で、アメリカで始まった生物多様性を守るための取り組みの一つです。

日本では、トキを守るためにトキが生息する田んぼでの米作りを大切に継承する新潟県の「トキ米」や、同様な兵庫県の「コウノトリ米」、神奈川県「湘南タゲリ米」などがよく知られています。これらの中でもとりわけ早く

始まった生き物ブランド米が「湘南タゲリ米」の取り組みです。

「湘南タゲリ米」の活動

「タゲリ」は毎年ユーラシア大陸から湘南地域で越冬する渡り鳥です。年々飛来数が減少し、タゲリは神奈川県絶滅危惧種に指定されました。それは、タゲリが好む湘南の平野部に開けた湿地が、開発や農家の担い手不足によって減少したことが原因でした。草の根市民グループ「三翠会」は、タゲリを守るためには農家の持続可能性が不可欠だと気付きます。

そして、農家の持続可能性には、お米作りで経済的な持続可能性が確保できることや、苦

てくれる消費者「会員」も募って販売します。また、ボランティアを募り、共同作業が必要な農家を支援しつつ、顧客に対してはタゲリ米を食べることに、単にお米を消費する以上の意義があることを伝えていきます。さらに、お米の消費量を拡大させるべく、地元酒造りの協力を得て「タゲリ焼酎」を作ったり、米粉のスイーツのレシピ開発をしたり、田植え体験などで近隣の小学生たちに環境教育の機会を提供するなど、地域に根差して多様な取り組みを展開しています。

生き物ブランド米が育む地域の誇り

こうした活動が実を結び、タゲリの飛来数が再び増え始めました。

タゲリ米を中心にした一連の取り組みは国内外から高く評価され、直接活動に関わっていない地域の人々からも注目されるようになりました。地域の中に「タゲリ」を中心にコミュニティが生まれ、多様な立場の人々の関わりが生まれて、タゲリが飛来する地域への誇りが育まれています。

地域の持続可能性のために生物多様性が守られることは不可欠ですが、生物多様性は、地域の担い手である人々によって創出されます。人は、好きなもの、自分に意

味あるものしか大切にしないのもです。地域を大切に思い、いつまでも同じ地域で暮らしていきたいか否かは、地域の良い面をいかに意識できるか、すなわち地域アイデンティティー(地域の独自性)を持ち得るかに大きく関わっています。

行為の意味を変え、価値をもたらすエコ実践

このように生き物ブランド米の取り組みの中で、米作りという大変な仕事は、もはや農業というだけではなく地球環境保護実践を意味するようになっていきます。働く意味が、経済的な持続可能性を超えて誇りになっているのです。また、地域内外の人々にとっても、タゲリ米を食べることは食べるという行為を超えて、地球環境と地域環境の保全活動への参加、エコ実践にもなっています。

このように、関わるあらゆる立場の人々の行為にエコロジカルな意味と価値をもたらしていく、これがエコ実践の本質的な意義だと思えます。衣食住のささやかな日々の行為でも、私たちはきつと生きる意味を創造しながら、人と生き物の豊かなつながりを回復できると信じています。

《参考》

「三翠会」公式サイト (https://www.tagerimai.com)